



みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース



こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.33

信毎こども記者クラブは2月26日、取材教室「たんけん 信濃のわざ 建具編」を長野市篠ノ井の栄建具工芸で開きました。今年の取材教室の第1弾。今回から「わざ」がテーマです。今回の講師は、全国の寺社などの建具や

組子細工を作ってきた建具職人の横田栄一さん(71)。組子細工って、みんなは見たことあるかな? 教室の内容は、きょう3月3日付の信毎こども新聞にも特集しています。いっしょに読んでください。



すごいで! 組子の技



今年の取材教室スタート



親方の横田 栄一さん (71)

さすが記者、ただ聞いているのではなくよくメモしてました。記録にする大事さをみんな良く知っている。こうした経験を生かして行ってくださいね。



弟子の小嶋 佑季さん (24)

みんな熱心で、自がキラキラしていました。子どもにも興味を持ってもらえる仕事をしているんだなあと、この仕事の良さをあらためて感じました。



弟子の小林 勇樹さん (19)

体験しているみんなの姿が立派で、見習わなくてはならないなと思いました。こういう体験は大事。何にでも関心を持ってやってください。



小山 いづ 記者 (上田市 4年)

楽しみにしていたのは組子細工の体験です。まず、あさの葉もようのヒノキのコースターキットが配られました。どうやって組み立てるのかとわくわくしました。

木にはびみょうに角度がついたなめの切りこみがあり、少しでもずれがあると形になりません。これを作ってくれた横田さんたちはすごいなと思いました。組子を打ちこむ時、木づち

でたたくと、ヒノキなのでやわらかく、ストンと入って気持ちがいいです。全体がすきまなくきれいに仕上がりました。

ヒノキの特長で、香りがとてもいいです。組み上がった木はそれぞれ色がちがい、あざやかだったり、そうでなかったりします。いい木はすごく光っている感じがするのです。

ほくは、日本の大切な建具のわざを守っていく横田さんを、おうえんしていきたいなと思ってコースターを作りました。



白鳥 達也 記者 (小諸市 6年)

一番印象に残っていることは今と昔の建具屋さんの数です。昔は建具屋さんがたくさんあったと聞きました。でも今はごくわずかになってしまいました。さらに昔は、家を建てるのに、建具屋やかわら屋などいろいろな職人のことをよく知っていなければならなかったのに、今は、こうむてんにたのめば知らなくても建てられます。

昔とくらべて建具屋さん はへってしまいました。で

も、技術は進化しています。じっさいに中に入ってみるとすばらしい作品がたくさんありました。組子細工の技術は、日本にしかないもの。きつと守っていくべきです。建具屋さんの組子細工は、すばらしく人の心をあだやかにするものだから。

建具の技術を守りたい

次回の取材教室は

「たんけん 信濃のわざ 時を学ぼう」

3月26日(月) 午後1時半~4時

【場所】セイコーエプソン塩尻事業所 (塩尻市塩尻町390)

【講師】竹岡一男さん(55) 同事業所ウオッチ事業部 W生産部技術エキスパート

【定員】20人程度 ※先着順、定員になり次第締め切り

【内容】時計の進化や、ぜんまいを使う機械式時計の仕組みなどを取材。細かなねじをあつかってみる体験も。



あご~い 切り込みを入れて曲線にするだよ



あご~い 切り込みを入れて曲線にするだよ

